



Title	北海道大学大学院水産科学院・水産学部におけるFD・TA活動
Author(s)	栗原, 秀幸; 山崎, 浩司; 水田, 浩之; 木村, 暢夫; 平石, 智徳; 志賀, 直信; 土本, 光一; 尾島, 孝男
Citation	高等教育ジャーナル : 高等教育と生涯学習, 16, 133-136
Issue Date	2008-12
DOI	10.14943/J.HighEdu.16.133
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/38794">http://hdl.handle.net/2115/38794</a>
Type	bulletin (article)
File Information	No1611.pdf



[Instructions for use](#)

## 北海道大学大学院水産科学院・水産学部 における FD・TA 活動

栗原 秀幸\*, 山崎 浩司, 水田 浩之, 木村 暢夫,  
平石 智徳, 志賀 直信, 土本 光一, 尾島 孝男

北海道大学大学院水産科学院教育改善委員会 FD・TA 研修室

### Faculty Development Activities of Faculty Staff and Teaching Assistants in the Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University

Hideyuki Kurihara,\*\* Koji Yamazaki, Hiroyuki Mizuta, Nobuo Kimura,  
Tomonori Hiraishi, Naonobu Shiga, Koichi Tsuchimoto and Takao Ojima

Executive Group for FD Meeting and TA Orientation, Faculty Committee of Educational Development,  
Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University

*Abstract* — The faculty development (FD) meeting began in the Faculty of Fisheries Sciences of Hokkaido University in 1999. In the FD meeting, the faculty members discuss various aspects of education methods, organization, cooperation between the faculty and administrative staff, etc. Orientation of teaching assistant candidates began in 2003. The faculty members also joined this orientation to talk with these candidates. The faculty committee of educational development and executive group for the FD meeting and teaching assistant (TA) orientation were officially established in 2005.

(Received on 1 February, 2008)

---

\*) 連絡先: 041-8611 函館市港町 3-1-1 北海道大学大学院水産科学研究所

\*\*) Correspondence: Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University, Minato, Hakodate, Hokkaido 041-8611, Japan

## 1. はじめに

大学院設置基準および大学設置基準の一部改正により、大学院と学部においてFD（ファカルティー・デベロップメント）が義務化されたが、既に水産科学研究院では平成11年に第1回のFD研修を開催し、以来平成19年まで9年間に亘り計12回の研修を重ねている（年2回開催した年もある）。また、学部専門科目に関するティーチング・アシスタント（TA）研修は、平成15年に開始し、平成19年には第6回を数えた。これらの研修活動は、当初北海道大学教育ワークショップに参加し教育研修を受けた教員から成る有志組織「水産学部FD研修室」のイニシアティブのもとに進められたが、平成17年からは新たに設置した「教育改善委員会」が教育改善の任に当たることになった。また、教育改善委員会の下には「FD・TA研修室」が設置され、この研修室が実行組織となって教育の点検と改善に関する諸活動を担当している。ここでは、水産科学院の教育改善委員会およびFD・TA研修室の組織体制および研修活動の実状を紹介したい。

## 2. 教育改善委員会とFD・TA研修室の組織体制

水産科学院では、教育改善のための委員会組織として「教育改善委員会」を平成17年に設置した。「FD・TA研修室」はこの委員会の下部に位置するいわば「タスクフォース」に相当する組織である。これらの組織の任務およびメンバー構成は以下の通りである（水産科学院教育改善委員会内規を要約）。

### ○ 教育改善委員会の任務

- (1) 学院および学部における教育改善努力の恒常的な点検と、必要な改善策の学院長および学部長への助言
- (2) 学院および学部教育に携わる教員を対象としたFD研修の企画
- (3) 学院および学部教育の教育改善を目的としたアンケート調査の企画
- (4) TA研修の企画
- (5) 北海道大学教育ワークショップ（北大FD研

修）参加教員の推薦

- (6) FDおよびTAに関する諸問題への対応
- (7) 受験生への支援活動
- (8) 中期目標・中期計画の達成に必要な教育改善関連事項の策定と実施
- (9) 教育改善に必要な研修室またはワーキンググループの設置
- (10) その他教育改善に関する事項の検討

### ○ 教育改善委員会の構成

- (1) 評議員（委員長）
- (2) 教育担当の研究院長補佐
- (3) 部門から選出された教員各1名
- (4) 学科から選出された教員各1名
- (5) その他委員長が必要と認めた教員
- (6) 委員の任期は2年（再任を妨げない）

### ○ FD・TA研修室の任務

- (1) 学院および学部のFD研修の企画と実施
- (2) TA研修の企画と実施
- (3) その他教育改善に関連する企画の実施

### ○ FD・TA研修室の組織

- (1) 室長（教育改善委員会委員長（評議員）が指名）
- (2) 部門の教員各1名（室長が指名）
- (3) 北海道大学教育ワークショップに参加した教員のうち、各学科から1名（室長が指名）
- (4) その他、室長が認めた教員

水産科学院・水産学部では、「教務委員会」がカリキュラム、シラバスの整備、学生の修学指導などの教務関連任務を担当し、「教育改善委員会」は教育の質の向上に関連する様々な事項の企画、立案、評価など、教務委員会では扱いにくい任務を担当している。FD・TA研修室は、後者の委員会の実行組織であり、現在7名の教員にオブザーバとして教務係長を加えた計8名のメンバーで構成され、毎年12月のFD研修と4月のTA研修の開催を主な活動内容としている。FD研修は、開始当初北海道大学の教育ワークショップに習い、函館近郊の宿泊施設に出向いて1泊2日の教育ワークショップを行っていたが、ここ数年は宿泊研修ではなく、学部大会議室において学生の修学や厚生補導における諸問題、

部局の教育体制など、教員の関心事を中心テーマとしたセミナー研修を開催している。なお、研修会ではその年の北海道大学教育ワークショップに参加した教員（毎年2～4人）に研修内容を報告してもらい、大学としての教育改善努力についても学んでいる。一方、TA研修においては、1回目は学生だけを対象としていたが、学生からの要望もあり、2回目以降は関連教員も参加した合同TA研修として開催している。これらの研修の実施状況は、以下にまとめた。

### 3. 水産科学院・水産学部におけるFD研修の実施状況

FD研修は教育改善委員会の下にFD・TA研修室

を設け、この研修室が中心となって年1-2回のFD研修会を開催している（表1）。また、学部も含めた授業改善のためのFDを、サブタイトルを定めて2年ごとに計4回実施している（表2）。

### 4. 水産科学院・水産学部におけるTA研修の実施状況

水産学部では、学部専門科目の実験・実習科目においてTAを採用しているため、平成15年度より実験・実習を担当するTAのための研修会を毎年4月（平成15年度のみ9月にも開催）に開催している（表3）。なお、全学教育を担当するTA予定者は、4月に札幌キャンパスで開催される「全学教育科目TA研修会」に参加しなければならないが、函館キャン

表1. 水産科学院・水産学部FD研修の実施状況

回	年度	FDタイトル	対象	参加者数
第1回	平成11年	水産学部UPDATEから教育改善に向けて	教員	約40名
第2回	平成12年	水産学研究科の方針と方策, 今なにをなすべきなのか	教員	約30名
第3回	〃	水産学部を魅力ある学部にするために	教員	11名
第4回	平成13年	研究科・学部教官の意識は変わりつつあるのか	教員	14名
第5回	〃	近未来の水産学部・研究科教育の姿を考える	教員	36名
第6回	平成14年	研究科・学部として今やっておくべきこと —学生の声は聞こえていますか—	教員	29名
第7回	〃	法人化移行後の学部・大学院教育を考える	教員	29名
第8回	平成15年	21世紀の水産科学における高等教育体制の在り方 (教員とTAとの合同研修会を含む)	教員TA	教員39名 TA41名
第9回	平成16年	地域の中の大学と高等教育の充実	教員	35名
第10回	平成17年	魅力ある大学院教育と水産科学の展望	教員	48名
第11回	平成18年	学生とよりよくコミュニケーションをとるために	教員	約60名
第12回	平成19年	個性ある水産科学研究院をつくりあげるために	教職員	教員46名 事務9名

表 2. 授業改善に関する FD のサブタイトル

回	サブタイトル
第 4 回	「学生アンケートによる授業評価」からみると学生は専門授業科目を厳しく評価している
第 6 回	「学生による授業アンケート調査(学部)のフィードバック」について
第 9 回	(1) 学生による「授業アンケート」から見た自分の授業について (2) 授業改善へのヒント
第 11 回	学生による授業アンケート調査結果」について

表 3. 水産学部 TA 研修会参加記録

回	年度	学生数	教員数	研修でのグループ作業タイトル
第 1 回	平成 15 年(4 月)	145	—	実験に関連したケース・スタディー
第 2 回	平成 15 年(9 月)	30	15	実験実習を構成する各要素に対する TA の役割・権限
第 3 回	平成 16 年	112	21	危機管理のために TA は何をすべきか
第 4 回	平成 17 年	113	20	危機管理のために TA は何をすべきか
第 5 回	平成 18 年	86	16	学科の学習目標と実験・実習内容の関連性
第 6 回	平成 19 年	84	18	TA を行う際に、遭遇しそうな事柄に対してどう対処するか

ンパスでは高等教育開発総合センターとの共催で TA 研修会を開催し、これをもって全学教育科目 TA 予定者の研修としている。また、第 1 回研修会のアンケートで、「教員の出席を望む」との回答が多かったため、第 2 回以降は、あらかじめ教員へ参加をお願いした上で「教員と TA の合同研修会」として実

施している。

研修会の前半では、「大学授業の成立ち」、「実験実習での TA の振る舞い」、「職業としての TA」という内容をレクチャーし、後半では、ケーススタディ等のグループ学習を通して、各自が TA の責任や任務、振る舞いをより深く理解する内容となっている。